

## 【公表】

### 進捗状況の概要（1ページ以内）

計画調書に基づき、令和2年度の実施計画に沿って、以下の通り事業を推進した。

#### 1. 事業計画実施体制

学長を中心とした実施体制で、全学的な教学マネジメント推進組織である教育開発機構（機構長：副学長、以下機構）を運営組織として、同機構内の教育開発室と新たに設置した「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム運営委員会（以下運営委員会）を中心に事業を推進した。学長を議長とする大学協議会で、各学部長等への趣旨説明、周知等を行い、今後全学的に展開していくため、各学部に対して協力要請を行った。コーディネーター（1名）、学修アドバイザー（2名）を任用し、運営委員会の構成員とすることで、運営委員会の体制を整えると共に、令和3年度に向けた指導体制を整えた。FD・SDでは、同機構内のFD推進センターと協働して、3月にFDを開催し、本事業プログラム（以下プログラム）の趣旨の理解と共有を図った。取組全般については、令和2年度の状況と今後の予定について、教育開発室で総括し、また、学外の有識者からなるアドバイザーリー委員会の設置・開催により、広く意見や助言を得ながらPDCAを回している。

#### 2. 到達目標と事業内容

三つの方針の再確認や、授業科目の新設等、プログラムが目指す5つの力（ひらめきづくり、ことづくり、ものづくり、ひとづくり、AI・ビッグデータ・数理データサイエンス）を念頭に置いた教育課程の編成を行った。また、成績評価については、標準ルーブリックの素案を完成させた。さらに、科目や担当者による成績評価の相違が大きくなるように、成績の信頼性を上げるため、成績評価の基準化を行った。

#### 3. 年度別の計画

人材任用、教育課程の編成、FD実施、施設設備の整備、事業紹介の特設Webサイトやパンフレット等を通じた学内外への情報発信、有識者や卒業生への調査による人材ニーズの把握、次年度のフォローアップ調査に向けた、新たな調査項目の設定等、事業推進に必要な令和2年度の計画は概ね実施できた。また、選定時には、留意事項として、本事業に関するFDの開催や事業計画における他学部への説明、プログラムの科目編成、外部評価に関して言及があったが、いずれも年度内に、学内関係会議等を通じて、必要な説明や留意事項の実施を行うことで適切な対応に努めた。

#### 4. プログラムを通じて構築される全学的なマネジメント改革への対応状況

自大学の現状把握と課題の設定を、科目の修得を通じて得た幅広い教養や専門知識を有機的に使用し、課題の解決策を提案できるような、「統合的な学びの科目」を通じた人材育成とし、教育開発室や運営委員会を通じ、学内関係会議とも連携し、教育課程の編成等を行った。コーディネーターや学修アドバイザー等の専門人材の任用やFD実施、情報発信等、体制の整備や学内ステークホルダーへの周知を通じて、教学マネジメントを機能させ、理工学部を中心とした大学教育の改革を進めた。

（大学等名：東京都市大学、事業計画名：ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム）